

西部支部だより 第161号

平成28年1月29日発行
(公財)鳥取県産業振興機構 西部支部
[E-mail:kseibu@toriton.or.jp](mailto:kseibu@toriton.or.jp)

☆☆平成27年度 活動報告会・講演会・会員交流会を開催いたしました☆☆

1月22日(金)米子全日空ホテルにおいて当財団の「平成27年度 活動報告会・講演会・会員交流会」を開催いたしました。

当財団の賛助会員の皆様の他、関係者の方約130名に御参加いただき、中山 孝一理事長のあいさつの後、小林常務より現在当財団が行っている事業実施の状況を御説明し、次に、リサイクル事業を通じて循環型社会に貢献されておられます株式会社大協組様より、特許を取得された焼却灰リサイクルシステムの全国展開についての事例発表と、当財団の自動車担当マネージャーによる現在の自動車業界の実情と県内自動車関連産業への支援事例の発表を行いました。

活動報告及び事例発表後には、広島県山県郡北広島町に本社のあるオオアサ電子株式会社の代表取締役社長 長田克司氏により

「庇護からの脱出と自立～夢をカタチに～」と題して講演をいただきました。

オオアサ電子株式会社は、LED部品製造からスタートし、その後、液晶部品を主力に事業展開して来られました。しかし、売り上げの8割以上を依存していた大手国内メーカーの海外生産シフトによる受注減を契機に、部品下請企業から脱却され、高級オーディオスピーカーの完成品メーカーに生まれ変わることになりました。この成功例については、テレビ東京の人気番組「カンブリア宮殿」でも取り上げられました。



【発表中の(株)大協組 松本専務取締役】

講演では、自身が出演された番組の映像を放映された後、リーマンショックの危機の際、創業企業を潰さずに、部品下請企業から自立し、強い企業へと変貌させてきた軌跡と、夢をカタチにすることの大切さについて、次のようにお話をされました。

- ・リーマンショックにより150名の従業員を抱えたまま主要取引先を失った困難の中、「勤勉で粘り強いなどの企業体質」、「30年間培ってきた熟練した固有技術」、「若い頃から築いた人脈」、「長年少しづつ積み立てていた資金」の4つの要因により、小さいながら自立した完成品メーカーへの転換が決断できた。
- ・大手メーカーは、今の世の中、部品の下請ということだけでは守ってくれない。下請企業は、大手メーカーからの庇護という概念から脱却し、それぞれの企業が持つ強みを生かした協力関係を築くことが重要である。
- ・中小企業が、全国や世界に通用するものづくりを行っていくためには、知恵と工夫を出せるための人材育成と、企業や行政・大学等との連携を図っていく必要がある。
- ・人生や仕事の結果を「能力×熱意×考え方」で表す理論があるが、「能力」と「熱意」のパラメーターはプラス志向のみであるのに対し、「考え方」にはマイナス志向もある。事業を成功させるためには、「真面目」、「正直」、「努力」、「信念」など、特に目に見えないプラス志向の部分を活かしていく「コンピテンシー(行動志向)」が大切である。



【会員交流会での 山下琴浦町長】

と御講演をされ、参加された賛助会員の皆さんは熱心に聴講され、苦難を脱却されたお話に感銘を受けておられました。

講演会後は、琴浦町の 山下一郎町長 の乾杯の御発声により会員交流会を行い、会員相互の交流を深めました。

今後も、会員皆様の御意見を伺いながら、より身近な財団となりますよう職員一丸となって努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。



【御公演中の長田代表取締役社長】



【活動報告会・講演会の様子】